



講義を行う趙成旭第2地区長



第5地区の研修会で決意表明をする教区婦人代表



第7地区の研修会



第9地区の研修会で地域大会の報告を行う金允坤鳥取教区長



ディスカッションを行う第4地区の責任者

孝情の伝統を相続し、VISION2020 勝利に向かって邁進しよう

全地区が責任者研修会を開催し再出発

日本家庭連合は、9月12日に行った「全国教区連合出征式」をもって「VISION2020 勝利に向かう『中断なき前進』第14次特別精誠路程」(9月12日～10月21日の40日間)を出発し、来年2月の真の父母様の御聖誕日に向け、さらには天宙聖和6周年の祝福式に二世圏4000人を導くため、「中断なき前進」をしています。そんな中、天宙聖和5周年までの「第2次120日路程」の歩みを総括し、御聖誕日に向けて行われる「第3次120日路程」をさらに実りあるものとするため、このほど地区別に1～2日間の研修会を開催。真のお母様の孝情の伝統を相続していくとともに、地区内の全責任者が疎通と共有を行いながら、摂理の方向性と完全に一つとなって出発する機会となりました。

9月12日、宮崎台国際研修センター(川崎市)で行われた全国教区連合出征式で、宋龍天・全国祝福家庭連合会総会長は、「天の父母様と真の父母様と一つにな

る瞬間には絶対に『私』がなくなればなりません」と強調。その上で、「過去の慣習を完全に捨てて、祝福家庭として天の父母様と真の父母様と一つになった瞬間を続け、1日、1週間、1月、1年を通して、永遠の命の生活を続けなければなりません。そのための出発が今回の第14次40日路程です。この期間において、私たちは自らをもう一度振り返り、新たな出発のための基台を造成し、『中断なく絶えず前進』しておられるお母様の孝情の伝統を継承する期間としなければなりません」と語り、第14次40日路程の内的目的を説明しました。

こうした内容を踏まえ、地区別の研修会では、①地区長による「天一国定着のための祝福中心家庭の生活」の講義②「中断なき前進」のみ言訓読(『平和経』342ページ)③「第2次120日路程」の総括と「第3次120日路程」の戦略策定④教区

別戦略会議——などが共通プログラムとして実施されました。

天一国時代にふさわしい祝福家庭に

第11地区(九州)の研修会(9月21、22日)で、朴鍾泌地区長は「天一国定着のための祝福中心家庭の生活」の講義を行い、復帰摂理を歩む中心人物として教会員が持つべき心情姿勢について説明。良心に従う生活や夫婦が一つになって歩む生活の大切さを丁寧に力強く語りました。

また、天一国時代の真の主人として歩むべき神氏族メシヤの使命の重要性を強調しながら、「天の願いを具体的に成就する我々になっていきましょう」と呼び掛けました。

地区別研修会では、最初に地区長の講義を通じて天一国時代を生きる祝福家庭の持つべき内的姿勢を確認するとともに、真のお母様の心情と願

いを深く感じ取り、第3次120日路程に向けて決意を固める時間となりました。その上で、勝利した教区の証しや戦略を共有しながら、新しい発見や知恵が与えられ、大きな恩恵を受ける機会となりました。

第1地区(北海道)の安田公保地区長は、「教会の成功事例の発表では、今回は120日路程で二世青年祝福と実質的教会成長の両方でバランスよく実績を立てた3つの教会を選びました。Bランク、Cランク、Dランクの各1教会が発表しましたが、この両方が成長している教会には、ビジョンと思想があり、教会のフレーム転換のための取組みがあり、具体的戦略が共有されていました」と述べています。

(3面に続く)

(2面から続く)

一方、第4地区(南関東)の刑部徹地区長は研修会(9月12、13日)の中で、「天上の真のお父様と地上の真のお母様が天に対する孝情を中心として、完成された四位基台を聖和祝福と結婚祝福を通して全人類に相続してくださいました」と説明。「私たちが真の子女として、天の父母様に似る孝情の心情の相続という内的動機が何よりも必要であり、この啓蒙と教育なくしては『HJ天苑プロジェクト』の取り組みも進展しません。実質教会成長、二世圏祝福、救国救世基盤の造成のすべての勝利の鍵は、孝情を中心とした内的心情の成長にあり、そのための教育が重要になります」と訴えました。

全責任者が摂理の方向性と一つに

研修会では、ディスカッションが積極的に行われ、「教区ごとに責任者とスタッフが同じテーマで話せたことで、様々な意見や証しなどを疎通・共有することができ



教区別会議を行う第11地区の責任者たち

てとても良かった」と(第2地区)といった感想が多く聞かれました。

家庭連合本部の主導で、共通のプログラムの下で行われた今回の地区別研修会。全国の責任者が心情一体化し、進むべき方向性を明確にして出発していくことができました。

【参加者の感想】

天地が一つになって摂理が進展する時代に

「第2次120日路程」において、孝情で走り抜き、毎日毎日を戦ってきました。真のお父様の聖和5周年祝祭の大勝利、そして真のお母様の素晴らしい「天地鮮鶴苑 起工式」の感動。時代が変わり、正に真のお父様と真のお母様が、天地が一つとなって進むVISION2020であることを肌で実感しました。「中断なき前進」のごとく、本日の研修会では金満辰第5地区長の講義で気が充実し、各教区長の証しと戦略で覚醒させられました(第5地区 婦人代表)

全体で意識を高め合って再出発

各教区の総括を聴きながら、どこも同じ課題を抱えながら戦っており、やはり、リーダーの決意と姿勢、スタッフとの疎通・共有が重要であり、そこから出てくる戦略を継続していく必要性を感じました。全体が集まると、意識も高まり、良き出発ができたと思います。神氏族メシヤ、教会成長、救国救世に対しての方向性が整理でき、天地鮮鶴苑の意義も良く分かりました。(第7地区 牧会者)

真の父母様を証しできる“本物”の家庭を築きたい

「天一国時代の祝福家庭の生活」の講義を通じて、今までは家庭が大切と思いながらも個人で走ってきたし、走ってこざるを得ない状況でしたが、「夫婦、

親子が証しにしなければ、ご父母様を証せない。もう形だけでは勝負できない。本物にしなければならない」と思いました。また「家庭教会をいかに定着させるか」の講義では、家庭教会の定着無くして真に基盤を築くことは難しいので、全体が真剣にそこに力を注がなければと焦る思いになりました。(第8地区 婦人代表)

認定家庭教会の基盤強化に取り組む

北谷真雄第10地区長の「認定家庭教会の基盤を確固たるものとしながら神氏族メシヤ活動を進めていくことこそ、実質的教会成長の根幹である。為に生き合う幸せな家庭建設をなして、二世圏祝福を推進しよう」との教育を教区・教会に持ち帰り、食口一人ひとりを大切に愛していきます。個人救援から家庭救援へと次元を高めて行くべく、認定家庭教会の増強に努めて参ります。(第10地区 牧会者)

地区の責任者が和合統一する機会に

今回の研修会を通して、地区長を中心とした地区責任者たちの和合統一の場が与えられたことが感謝でした。他の教区の報告や証しを通して、課題解決の参考になりました。特に家庭訪問などを通して、二世教育と父母教育を同時に進めていくことを検討したいと思います。(第11地区 牧会者)

二世圏の摂理と歩調を合わせ、国際感覚を養う

「第1回公職者短期海外宣教プログラム研修会」開催



- ①開会式に参加したプログラム参加者(後列)
- ②徳野英治会長
- ③竹内啓晃青年学生局長

9月21日～22日、宮崎台研修センター(川崎市)で「第1回公職者短期海外宣教プログラム研修会」が開催されました。

今年度からスタートするこのプログラムは、「将来の統一運動を担う基幹人材の育成と二世圏指導者層の養成」を目的として設立・運営されている天一国奨学金の公職者育成事業の一つとして企画。統一運動の将来を担う25歳から50歳までの若手公職者を対象として、近年、天宙士官学校や天一国青年宣教師、グローバル・トップガン・ユース(GTGY)など、国際的に二世圏を指導される真のお母様の方向性に合わせ、二世圏を指導する公職者も青年学生と同じ天の訓練を受け、海外経験を通じて国際的視野を広げることを目的としています。

今回のプログラムの参加者は、兵庫教区の先山茂樹成和青年部長(45)、徳島教区の住友高志成和青年部長(48)、横浜家庭教会の異龍馬成和青年部次長(50)、武蔵野家庭教会二世青年教育担当の原庸之さん(37)、杉並家庭教会教育担当の芳田卓さん(34)、熊本家庭教会の土田興治成和学生部長(23)の6人です。

研修会は、開会式で田中富広副会長の激励の辞と山田敦之企画部長による歓迎の辞があり、その後、各自が面接を受けてから、飯田智史国際宣教部長による天一国青年宣教師に関する講義の後、くじ引きによって派遣国を決定しました。派遣国は、西アフリカのベナン共和国とヨーロッパのアルバニア、中米のドミニカ共和国の3カ国で、いずれも天一国青年宣教師が歩み、教会基盤が発展している国です。

派遣国の決定後は、先に現地で歩んだ天一国青年宣教師の証しを聞き、質疑応答を実施。夜にはインターネットのビデオ通話で現地の天一国青年宣教師と顔合わせをし、情報共有を行いました。

2日目は、竹内啓晃青年学生局長が講話で世界に対する真の父母様の事情と心情を伝えた後、宣教に行くための実務的な準備に関する説明を行いました。

閉会式には徳野英治会長が駆けつけ、自らの体験談を交えて海外宣教に臨む姿勢を指導。「3カ月という短い期間であっても、人生を大きく変える期間にもなり得ます」と語り、最善を尽くして内外の実績を立てるよう参加者を鼓舞しました。

閉会式後は、出発までの具体的な準備と段取りを確認し、それぞれ一旦地元に戻った上で、10月初旬のアルバニアを皮切りに、順次任地国に出発していきます。

【参加者の感想】

■74億人類すべての子女にみ言と祝福を与えたい御父母様の心情と事情を思うと、本当に何とでも早くみ旨を成就しなければならないという思いに駆られます。今回の短期海外宣教プログラムを何とでも成功的な形にしていきます。(原庸之さん)

■自分の事情は考えず、未知の世界に飛び込む境地にあるので、再度信仰を出発するような感覚にさせて頂きました。母の国・日本が今まで成してきた宣教の歴史の偉大さを感じながら、自分自身もその立場で歩ませて頂くことに感謝と共に責任と使命感で身が引き締まる思いです。(芳田卓さん)

全国の教区・教会で祝福祝賀会を開催

天宙聖和 5 周年聖和祝祭・孝情天宙祝福式の喜びと感動が冷めやらぬ中、日本では祝福式に参加した約 1700 人の新郎新婦のため、全国各地の教区・教会で祝福祝賀会が開催されています。その中から、南東京教区、福岡教区、宮城教区、東神奈川教区横浜家庭教会の祝賀会の様子を紹介します。

家庭出発に向けて決意を新たに

南東京教区



9月23日、南東京教区は東京・渋谷の松濤本部礼拝堂で祝賀会を開催し、今回の天宙祝福式に参加した47人が集いました。

祝賀会では、祝福を受けたカップルの映像上映、マジックや中高生のダンスなどのエンターテインメントの後、食事会となりました。

南東京教区青年部の方針紹介や有明久江・教区婦人代表による祝賀挨拶の後、堀正一教区長が講話を行い、み言に立ち返って生活をする重要性を語りました。

最後に、所属教会別の分科会を行い、祝福参加者たちは他の家庭と交流しながら、共に祝福家庭の出発をしていく仲間としての絆を深めました。

参加者からは、「福教区長のメッセージを受け、家庭出発に向けて頑張っていこうと決意を新たにしました」「先輩家庭との交流を通して、家庭出発に向けた準備について具体的に知ることができました」といった感想が聞かれました。

祝福後の歩みのポイントを教育

福岡教区



福岡教区では、福岡教区から祝福に参加した約50人を対象に、祝賀会と共に祝福後の歩みのポイントについて教育を行いました。二世の父母も多くが参加し、学びを深めていました。

祝福式当日の9月7日は、サテライトで祝福式に参加したカップルのため、福岡家庭教会で祝賀会を開催。

また9月10日には、福岡家庭教会で祝賀礼拝を行い、参加者による証しの後、下川善文福岡教区長が祝福式参加者にプレゼントを手渡しました。

その後、昼食を囲んで祝賀会が行われ、歌を歌ったり、証しをしながら恩恵交換。引き続き、第11地区（九州）の江頭ときゑ家庭教育部長が、祝福式後の内的姿勢や家庭出発までのステップなど、今後の歩みのポイントを講義しました。

10日に参加できなかったメンバーのため、17日にも礼拝後に教育の場が持たれました。

親に対する感謝の思いを伝える

宮城教区



9月10日、宮城教区仙台家庭教会で祝福祝賀会が行われ、約50人の祝賀客が参列し、今回祝福を受けた青年11人を祝賀しました。

余興や証しも非常に感動的で、祝福式参加者たちは川島隆則仙台家庭教会長のメッセージを受け、新しい出発をしました。

参加者からは、「前に出て話す時は何も考えていませんでしたが、導かれて親に対する感謝の思いが湧いてきて、初めて『ありがとう』の言葉を伝えることができました。青年だけの祝賀会とは違い、とても家族的でした」（祝福式参加者）、「喜んで祝福の感想を語っている様子を見て、『私も次に絶対受けるわ』と話している二世がいて、祝福に希望を感じました」（未婚の青年）といった感想が聞かれました。

祝福を授かった喜びと感謝を共有

東神奈川教区横浜家庭教会



9月17日、東神奈川教区横浜家庭教会で、祝福式参加者のための祝賀会が行われ、祝福式参加者15人と二世の父母6人など合計35人が集い、天の祝福を授かった喜びと感謝を分かち合いました。

祝賀会では、横浜家庭教会の松原和美家庭部長が祝福式に関する報告と総括を行った後、参加者本人の紹介、祝福式の映像上映、祝福二世の父母と参加者本人による証しの時間が持たれました。

また、東神奈川教区の柳根汀教区長が祝賀メッセージを述べ、歌のプレゼント。

続いて行われた食事会では、参加者たちが歌を披露し、最後に柳教区長が祝福式参加者に記念品を贈りました。

①松濤本部礼拝堂で開かれた祝賀会 ②堀教区長 ③写真を撮る参加者
④祝賀礼拝で紹介される祝福式参加者 ⑤証しを行う祝福式参加者 ⑥祝福式当日に行われた祝賀会（9月7日）
⑦川島教会長からプレゼントを受け取った祝福式参加者 ⑧食事会の一コマ ⑨ダンスを披露する青年たち
⑩祝賀会の参加者 ⑪食事会で ⑫柳教区長（左端）から記念品を受け取る祝福式参加者

“み旨を知らない人々に強く雄々しく 真の父母様を証ししよう”

岩手・花巻家庭教会で献堂式



① 献堂式の参列者
② 宋総会長
③ 青年学生によるダンス



9月17日、宋龍天総会長を迎えて岩手教区花巻家庭教会の献堂式が挙行政され、約300人が参列しました。

天の父母様と真の父母様に最高の聖殿をお捧げするため、花巻家庭教会の食口たちは自らの手で半年にわたって工事をを行い、特に大聖殿は3カ月をかけて整備しました。また、^{カンミンク}姜啟求・岩手教区長をはじめ、岩手教区の各教会の多くの食口が協力し、屋根のペンキ塗りや礼拝堂の天井貼り、壁・床の補修などを行い、無事に献堂式当日を迎えました。

献堂式では、最初に礼拝堂の前で宋総会長が祝祷し、代表者がテープカット。続いて聖別式が行われ、宋総会長の音頭で「サランヘ」を全体で歌いました。

記念礼拝では、花巻家庭教会聖歌隊による美しいハーモニーが響き渡った後、岩手教区の成和学生・青年による躍動感あふれる「無条件（ムジョツコン）」のダンスが披露されました。

花巻家庭教会の^{ユンヒウン}尹姫恩婦人代表による代表報告祈禱に続いて、沈愚謙教会長が1369坪の広大な敷地の意味合いのほか、花巻の食口たちの精誠の土台や岩手教区の食口たちの協力の助けで献堂に至った経過を報告。その後、教会献堂に特別に功労を立てた食口に感謝状が授与されました。

姜啟求岩手教区長、^{チョンソンウク}趙成旭第2地区長の祝辞の後、宋総会長が説教に先立ち、「ウリヌン、ハナダ（私たちは一つだ）」の歌を披露すると、礼拝堂に喜びの雰囲気が広がりました。

説教の中で、宋総会長は「天宙聖和5周年までの120日路程で、第2地区、岩手教区、岩手教区の各教会がトップレベルの実績を上げました」と称賛。その上で、「小規模な花巻家庭教会がこのように広い聖殿を献堂したことに驚きを感じました。真の父母様と一つになれば、“私”がなくなり、来年の天宙聖和6周年までには、さらに多くの入会者と二世圏青年祝福の参加者を備えられます。訪韓した際に花巻家庭教会の献堂をお母様に報告します」と語りました。

また宋総会長は、新たな聖殿を通して、①み旨を知らない人たちに強く雄々しく真の父母を証す②休んでいる食口を訪ねて今の摂理の方向性を知らせる③真の家庭理想を完成する美しい二世を育て教育する——という新聖殿献堂の目的を強調し、今後のさらなる教会の発展に期待を寄せました。

最後に、宋総会長は一人ひとりに記念品を渡しなが握手をし、参列者にとって忘れられない感動と喜びの式典となりました。

日本を救う家庭連合の祝福結婚

兵庫教区が「孝情文化兵庫県大会」開催



① 満員となった会場
② 徳野会長
③ 南米ペルーの伝統楽器の演奏

9月17日、徳野英治会長を迎えて兵庫教区主催の「孝情文化兵庫県大会」が神戸市内の会場で開催されました。この日は台風18号接近の影響が心配されましたが、奇跡的に台風の進行が遅くなり、大会開催中は雨もほとんど降らず、1000人を超える参加者が会場を埋め尽くしました。

大会は午後1時30分に開幕。第1部のエンターテインメントでは、南米ペルー出身の伝統楽器演奏家による南米音楽の演奏、二世子女たちによる天父報恩鼓の演舞、成和青年部による「よさこい」の順に披露され、会場の雰囲気を盛り上げました。

第2部の講演会では、開会宣言、代表報告祈禱、^{ユク}陸泰昊教区長による主催者挨拶に続き、来賓の地元議員が祝辞を述べました。

引き続き、徳野会長が登壇し、約50分にわたって講演を行いました。

その中で徳野会長は、2年前の世界平和統一家庭連合への名称変更の摂理的経緯と意義について紹介した上で、日本が直面している少子高齢化と人口減少の問題に言及。その解決策として、家庭連合が推進する祝福結婚の意義を原点的観点から解説しました。

また、家庭連合が国内外で進めている青年祝福の推進や二世教育、その他の活動を写真で紹介。最後に、2018年に真の父母様を兵庫県にお迎えして行う兵庫1万名大会の成功に向けて邁進してほしいと激励しました。

参加者全体の記念撮影の後、総勢50人を超える教区壮年部合唱団による迫力ある合唱、徳野会長による祝祷の後、板谷安一明石教会長の音頭で億万歳四唱を行い、大会は閉幕しました。

【参加者の感想】

■役所では（結婚の重要性について）まともな話ができず、「独り者はあかんのか」という話になってしまいます。家庭は「愛の学校」であり、「男と女は違う」、「結婚したら神に会える」という内容が印象に残りました。（地方議員）

■徳野会長の講話はとても分かりやすく、結婚の大切さや祝福の価値について、とても勉強になりました。何より力強い波動が伝わり、真のお母様を神戸に迎える決意を感じ、新たに出発して勝利をしたいと思いました。（婦人教員）

全国各地で書写イベント開催

9月17日、西東京教区武蔵野家庭教会は「孝情自叙伝書写フェスティバル in 武蔵野」を開催し、新規ゲスト230人を含む約840人が参加しました。台風接近に伴う悪天候のため参加キャンセルが相次ぎ、目標の1000人に届きませんでした。朴廷洙教会長を中心に食口たちが精誠を尽くした土台の上に、大会全体がとても導かれました。

フェスティバルでは、浅川勇男先生による講話の

全国各地で行われた書写イベント

日付	主催	イベント名	参加人数
9月11日	西東京教区杉並家庭教会	第53回自叙伝書写感謝の集い	300人
15日	群馬教区	第68回書写奉納伝授式	400人
17日	西東京教区武蔵野家庭教会	孝情自叙伝書写フェスティバル in 武蔵野	840人
17日	鳥取教区米子家庭教会	自叙伝心の書写奉納式	250人
17日	東埼玉教区	第7回東埼玉教区書写フェスティバル	270人
21日	新潟教区	新潟自叙伝心の書写大会	300人
27日	岡山教区岡山家庭教会	岡山書写奉納式	300人

ほか、今大会に向けて結成されたボーカルユニット「Butterfly」が日韓米の歌で会場を盛り上げました。



浅川勇男先生



札幌で「第26回秋の大讃美・原理大復興会」開催

9月17日、札幌市内のホールで第1地区（北海道）主催の「第26回秋の大讃美・原理大復興会」が開催され、新規のゲスト約200人を含む約1200人が参加。全道の教会から14の聖歌隊が集まり、「救国救世と孝情文化」のテーマのもと、聖歌や讃美歌、ポップス、オリジナル曲などを披露し、神様・イエス様・真の父母様を称え讃美しました。

加藤誠也広報文化局長は「希望の時代の到来」と

題して講演し、「家庭連合は神を中心とした人類一族世界の実現という明確なビジョンに向かっていきます」と強調。「多くの宗教がありますが、違いよりも共通点のほうが多く、結局のところ人類は共通の親を持っています。終末とは『希望の日』の到来であり、今こそ主とともにある希望の時代が来ているのです」と力強く語りました。



しげなり
加藤誠也広報文化局長

◇島根教区で「孝情ファミリーフェスティバル」開催

9月17日、大型の台風18号が接近する中、島根教区主催による「孝情ファミリーフェスティバル」が開催され、710人が集いました。

田中富広副会長は記念講演で、「祝福結婚は愛の学校の入学式であり、永遠の夫婦愛を育み、四大愛による理想家庭の実現こそが世界平和の礎となります」と語り、祝福結婚の価値と真の父母様の貴さを分かち合う場となりました。



◇西東京教区で「West Youth Festival 2017」開催

西東京教区は9月18日、「私達の夢」をテーマに東京都三鷹市内の会場で「West Youth Festival 2017」を開催し、500人が参加しました。

フェスティバルは、エンターテインメント、文化共産主義を批判し新たなる結婚観を提示する講話、青年メンバーが進めるプロジェクトの発表、祝福式参加者のインタビューなど盛りだくさんの内容でした。



◇東広島教区の「ファミリーフェスティバル」に800人参加

9月18日、幸せな家庭を築くことの大切さをテーマとした「第14回ファミリーフェスティバル」が広島県尾道市内の会場で開催され、約800人が参加しました。

フェスティバルでは、中高生と青年、壮年壮婦によるコーラスの後、田中富広副会長が家庭をテーマに講演。第2部では、女性デュオのコンサートで会場が盛り上がり、最後は大抽選会が行われました。



◇西大阪教区で「ピュアラブ&2017ピースロード」マーチ

9月24日、「西大阪教区ピュアラブ&ピースロード」のマーチを開催し、約440人が参加しました。

一行は、大阪市の西梅田公園から中ノ島公園までの道のりを家庭再建と世界平和を訴えながら行進。明るく元気のいい女性メンバーの訴えに合わせ、参加者が一つになってこぶしを天に突き上げながら行うシュプレヒコールが、大阪の中心街に響き渡りました。



◇「孝情文化フェスティバル in 岸和田」を開催

9月24日、南大阪教区岸和田家庭教会は大阪府岸和田市内のホールで「孝情文化フェスティバル in 岸和田」を開催し、320人が集まりました。

「未来を紡ぐ家族の絆」をコンセプトに行われた大会は、第1部のエンターテインメントで、和太鼓、創作バレエ、クラリネット独奏、コーラスなどで多くの人の心を魅了。第2部では、多田聡夫巡回師が記念講演を行い、親子のコミュニケーションの大切さを訴えました。

